

映画は、 アクシデント ではない

「アートフィルム・フェスティバル」は、実験映画やビデオ・アート、ドキュメンタリー、フィクション等、従来のジャンル区分を越えて、独自の視点からプログラムを構成する特集上映会です。

近年、スマートフォンやタブレット端末等、手近な機器でも動画の撮影が可能となり、事件や事故の現場に遭遇すれば、誰もがその瞬間を記録できる状況が生まれ、実際に「スクープ映像」等として、公開されるケースも珍しくありません。映画は1895年、フランスのリュミエール兄弟による「シネマトグラフ」公開に端を発する表現ですが、動きをとまなう迫真的な記録を撮影したその日のうちに再現可能としたスピード感は、当時、驚きをもって受け止められました。その一方、「スクープ映像」は、事件の現場に

立ち会ったのは間違いないけれども、それが起きた瞬間が手ブレ等により不鮮明な形でしか捉えられていないケースもままあります。つまり映像は、人々から期待されるような決定的瞬間を撮り逃してしまうメディアでもあり、現実にはそのようなケースの方が多い、とさえ言えるのかもしれませんが。ジャン＝リュック・ゴダールが映画誕生100年となる1995年を見据え制作したビデオによる大作『映画史』（1988-98年）は、そのタイトルに反して、単純に時間軸に沿って映画の歴史を語り啓蒙するような内容となっはいいませんが、そこにはアウシュヴィッツの悲劇を映画は十分に記録し切れなかった、との痛恨の思いが投影されている、という見方もあります。

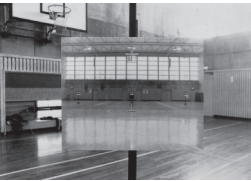
一方でアラン・レネが戦後、アウシュヴィッツ

に赴き撮影した『夜と霧』（1955年）や、アーカイブ映像を活用した松川八洲雄『ヒロシマ・原爆の記録』（1970年）のように、事後その本質に迫ろうとした作品や、東日本大震災直後に現地入りしながら、極力被災現場は撮らず、被災者の体験談を記録した酒井耕＋濱口竜介「東北記録映画三部作」（2011-13年）といった作品も登場しています。

本特集は、第二次大戦中に「命のビザ」を発給した杉原千畝を起点に、現在も続く難民問題について考察した、「愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品」最新第30作、SHIMURABros『Butterfly upon a wheel』（2022年）の初公開を契機に、映像が突発的な事件や事故にどう対応してきたか、歴史的経緯を踏まえ探求します。

小特集1

コマ撮りの技法と 表現の広がり



伊藤高志『SPACY』1981年
愛知県美術館蔵

オプティカル・プリンター（光学合成装置）が十分に普及しなかった日本の実験映画において、特殊効果的な技法を支えたのは主にコマ撮りでした。伊藤高志『SPACY』（1981年）の、空間が歪み見る者が映像に引き込まれるような幻覚的效果も、アニメーションと同様、ひとコマずつ地道に撮影することによって、得られたものでした。コマ撮りは、カメラが一台あれば可能な特殊効果であり、合成とくらべ比較的取り組みやすい面がある一方、単調な作業のくり返しには根気強さを求められます。石田尚志『フーガの技法』（2001年）、田口行弘『Cave』（2010年）、近藤亜樹『HIKARI』（2015年）等には、制作に費やした膨大な時間が、厚みとなって感じられるでしょう。ここでは所蔵作品を軸に、コマ撮りをベースにした表現の流れと広がりを概観します。

小特集2

開館30周年 拾遺集

日映新社
『建設記録・愛知芸術文化センター』と
『21世紀へのアートメッセージ』
（ともに1993年）のシナリオ表紙

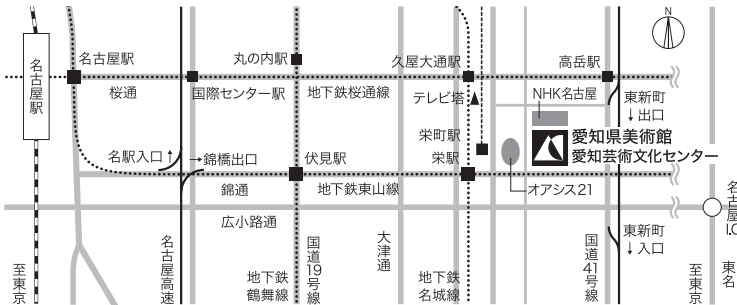


今年開館30周年を迎える愛知芸術文化センターには、日頃の活動を通じ様々な映像が残されています。それらの中には日本映画新社（日映新社）が制作した『建設記録・愛知芸術文化センター』（1993年）のように、開館時には上映されたものの、現在では公開する機会を逸しているものもあります。一方、愛知県美術館では、コレクションの一分野として映像が設けられたのは2011年と比較的最近ですが、年を追うその本数を増しつつあります。本特集では、このような過程で収蔵しつつ、公開機会のなかった、ぶろだくしょん我S『原点』（1970年頃）や、北川民次が出演したFM AICHIのラジオ番組『話の広場』（1973年）を公開します。また、愛知県広報広聴課の提供により、当センターの前身に当たる愛知県文化会館を取り上げた『愛知県政ニュース』等、関連する映像も紹介し、これまでの活動を補完します。

会場 愛知芸術文化センター 12 階アートスペース A
〒461-8525 名古屋市中区東桜 1-13-2

主催 愛知県美術館
Tel.052-971-5511 (代) Fax.052-971-5604
https://www-art.aac.pref.aichi.jp/

アクセス 地下鉄東山線・名城線「栄」駅下車／
名鉄瀬戸線「栄町」駅下車
オアシス 21 連絡通路利用徒歩 3 分



愛知芸術文化センター開館30周年記念 国際芸術祭「あいち2022」連携企画事業

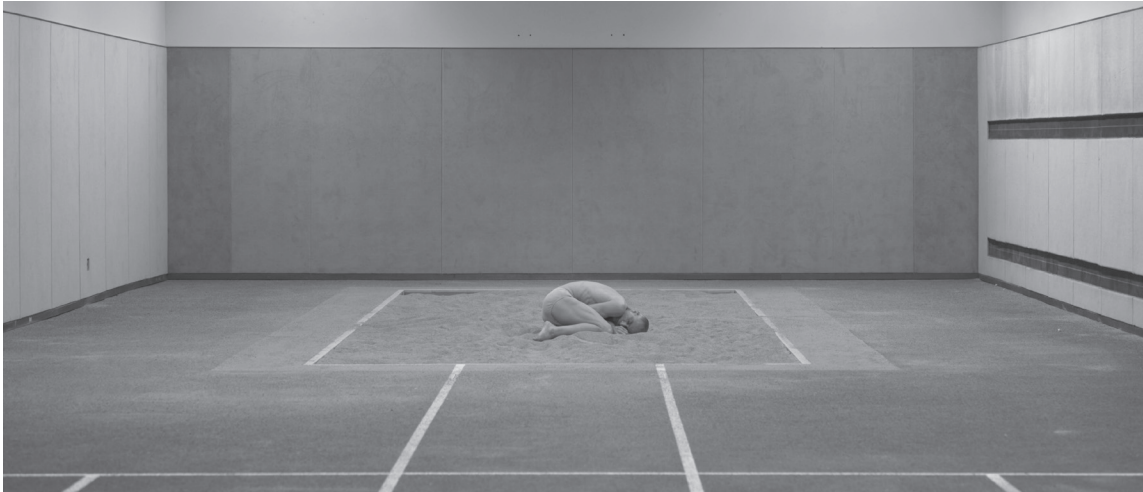
第26回 アートフィルム・フェスティバル

2022年8月23日(火)、8月26日(金)ー9月13日(火) ※月曜休館

会場: 愛知芸術文化センター12階 アートスペースA

定員: 100名（新型コロナウイルス感染症拡大状況により変動する場合があります）

主催: 愛知県美術館



SHIMURABros『Butterfly upon a wheel』（2022年） 主演：Juan Kruz Diaz de Garaio Esnaola
愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品 ※写真画像3点とも 写真提供：SHIMURABros

Art Film Festival vol.26



aomoo
aichi prefectural museum of art

▲AICHI ARTS CENTER

STILL ALIVE
国際芸術祭
あいち2022
連携企画事業



入場無料

映画は、 アクシデント ではない

第26回 アートフィルム・フェスティバル
2022年8月23日 (火)、8月26日 (金)～9月13日 (火) ※月曜休館

上映スケジュール

★：愛知県美術館蔵
☆：愛知県美術館蔵 (オリジナル映像作品)
○：アートライブラリー蔵
◎：アートライブラリー蔵 (大野一雄ビデオライブラリー)

「愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品」は、愛知県文化情報センターによる実験的な映像作品の制作プログラムとして1992年の芸文センター開館時にスタート。芸文センター内の組織改編に伴い、2014年、愛知県美術館が映像作品として収蔵するとともに、制作を継承しています。



酒井耕+濱口竜介『うたうひと』2013年　★



フレデリック・ワイズマン『軍事演習』1979年



太陽花運動映像記録プロジェクト『太陽花 (ひまわり) 占拠』2014年　※



蘭波 (ラン・ボー)『武漢、わたしはここにいる』2021年　※



松川八洲雄『ヒロシマ・原爆の記録』1970年



ジャン=リュック・ゴダール『映画史』1988-98年○

※作品提供: 認定NPO 法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭

	8月23日 (火)	19:00	愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品 最新第30作 初公開 SHIMURAbros『Butterfly upon a wheel』 2022年、20分、デジタル 主 演：Juan Kruz Diaz de Garaio Esnaola　＊上映終了後、SHIMURAbrosによるトークを行います。
	8月26日 (金)	17:30 19:30	亀井文夫『支那事変後方記録・上海』 1938年、77分、16mm (HD リマスター)、モノクロ 〃 『戦ふ兵隊』 1939年、66分、35mm (HD リマスター)、モノクロ　以上2本、提供：日映アーカイブ
	8月27日 (土)	13:30 15:30 18:30	日映新社『愛知県政ニュース』 「特報 伊勢湾台風」 1959年、35mm (DVD 上映) モノクロ 第1部 (9分)、第2部 (11分)、第3部 (11分)、第4部 (14分)、第5部 (11分) 計56分 日映新社『愛知県映画』 「伊勢湾台風 復興の歩み」 1961年、35mm (DVD 上映) モノクロ 第1部 (12分)、第2部 (13分) 計25分 以上2本、提供：愛知県広報広聴課 李一凡 (リ・イーファン)、鄢雨 (エン・ユイ)『水没の前に』 2004年、143分、DVCAM、カラー 太陽花運動映像記録プロジェクト『 ^{ひまわり} 太陽花占拠』 2014年、120分、Blu-ray、カラー
現場に挑む	8月28日 (日)	13:30 16:30	蘭波 (ラン・ボー)『武漢、わたしはここにいる』 2021年、153分、Blu-ray、カラー 洛洛 (ルオルオ)『ルオルオの怖れ』 2020年、85分、Blu-ray、カラー 以上4本、提供：認定NPO 法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭
	8月30日 (火)	15:30 17:00 19:00	亀井文夫『戦ふ兵隊』 1939年、66分〈再映〉 〃 『支那事変後方記録・上海』 1938年、77分〈再映〉 日映新社『愛知県政ニュース』「特報 伊勢湾台風」 1959年 第1～5部 計56分〈再映〉 〃 『愛知県映画』「伊勢湾台風 復興の歩み」 1961年 第1～2部 計25分〈再映〉
	8月31日 (水)	12:30 15:30 18:00	李一凡 (リ・イーファン)、鄢雨 (エン・ユイ)『水没の前に』 2004年、143分〈再映〉 太陽花運動映像記録プロジェクト『太陽花占拠』 2014年、120分〈再映〉 蘭波 (ラン・ボー)『武漢、わたしはここにいる』 2021年、153分〈再映〉
	9月1日 (木)	16:30 18:30	洛洛 (ルオルオ)『ルオルオの怖れ』 2020年、85分〈再映〉 フレデリック・ワイズマン『軍事演習』 1979年、115分、16mm、モノクロ
現場から、少し離れて	9月2日 (金)	16:30 18:30	フレデリック・ワイズマン『基礎訓練』 1971年、89分、16mm (Blu-ray 上映)、モノクロ、 以上2本、提供：コミュニティシネマセンター フレデリック・ワイズマン『軍事演習』 1979年、115分〈再映〉
	9月3日 (土)	14:30 16:30 18:30	フレデリック・ワイズマン『基礎訓練』 1971年、89分〈再映〉 アラン・レネ『夜と霧』 1955年、33分、35mm (Blu-ray 上映)、カラー・モノクロ　○ 松川八洲雄『ヒロシマ・原爆の記録』 1970年、30分、16mm (Blu-ray 上映)、カラー・モノクロ 提供：日映映像 & ナム・ジュン・パイク『ガダルカナル鎮魂歌』 ^{レイイェム} 1977-79年、28分33秒、ビデオ、 共作：シャーロット・モーマン　○ 計約92分
記憶、あるいは追憶	9月4日 (日)	13:30 15:30 17:30	ジョナス・メカス『リトアニアへの旅の追憶』 1972年、87分、16mm、カラー・モノクロ 提供：イメージフォーラム リティ・パン『S21 クメール・ルージュの虐殺者たち』 2002年、101分、DVCAM、カラー 提供：認定NPO 法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭 ジャン=リュック・ゴダール『映画史』 1988-98年、DVD、カラー・モノクロ　○ 1A「すべての歴史」 1988年、51分 1B「ただ一つの歴史」 1988年、42分 2A「映画だけが」 1994年、27分 2B「命がけの美」 1994年、29分 計149分
	9月6日 (火)	16:30 19:00	ジャン=リュック・ゴダール『映画史』 1988-98年、DVD、カラー・モノクロ　○ 3A「絶対の貨幣」 1995年、27分 3B「新たな波」 1995年、27分 4A「宇宙のコントロール」 1997年、28分 4B「徴 (しるし) は至る所に」 1998年、37分 計119分 リティ・パン『S21 クメール・ルージュの虐殺者たち』 2002年、101分〈再映〉
東日本大震災と映画	9月7日 (水)	15:30 18:30	酒井耕+濱口竜介「東北記録映画三部作」 2011～13年　★ 『なみのおと』 2011年、142分、Blu-ray、カラー 『なみのこえ 気仙沼』 2013年、109分、Blu-ray、カラー

東日本大震災と映画	9月8日 (木)	16:00 18:30	酒井耕+濱口竜介「東北記録映画三部作」 2011～13年　★ 『なみのこえ 新地町』 2013年、103分、Blu-ray、カラー 『うたうひと』 2013年、120分、Blu-ray、カラー
	9月9日 (金)	15:30 17:00 19:00	牧野貴『Generator』 2011年、20分、Blu-ray、カラー　☆ 船橋淳『放射能』 2013年、35分、Blu-ray、カラー　☆ 計55分 小森はるか『空に聞く』劇場版 2018年、73分、Blu-ray、カラー　☆ 天野天街『トワイライツ』 1994年、33分、16mm、カラー　☆ 前田真二郎『王様の子供』 1998年、40分、16mm、カラー　☆ 計73分
フィクションとしての事件	9月10日 (土)	14:00 16:00 18:00	和田淳子『ボディドロップアスファルト』 2000年、96分、ビデオ、カラー　☆ ビル・ヴィオラ『砂漠』 1994年、26分、ビデオ、カラー　○ 草野なつか『王国 (あるいはその家について)』64分版 2017年、64分、Blu-ray、カラー　☆ 計90分 ビデオインフォメーションセンター 手塚一郎『ラ・アルヘンチーナ頌 初演』カラー版 1977年、73分、ビデオ　◎
事件としての公演		13:30 15:30	大木裕之『3+1』 1997年、82分、16mm、カラー　☆ アルン・アーンボン『ヴァリエーションズ V』 1966年、50分、ビデオ 出演：マース・カニングハム舞踊団 音楽：ジョン・ケージ フィルム：スタン・ヴァンダビーク　○
小特集1 コマ撮りの技法と表現の広がり	9月11日 (日)	17:00 18:30	伊藤高志『SPACY』 1981年、10分、16mm、モノクロ・カラー　★ 石田尚志『フーガの技法』 2001年、20分、16mm、カラー　☆ 〃 『椅子とスクリーン』 2002年、8分、デジタル、カラー　○ 〃 『海の映画』 2007年、12分、デジタル、カラー　○ 計50分 田口行弘『Cave』 2010年、5分、デジタル、カラー　★ 〃 『Photo mix』 2010年、5分、デジタル、カラー　★ 〃 『Bakurocho band』 2010年、25分、デジタル、カラー　★ 近藤亜樹『HIKARI』 2015年、33分35秒、デジタル、モノクロ・カラー　★ 計約69分
小特集2 開館30周年 拾遺集	9月13日 (火)	16:00 17:30 18:30	① 愛知県美術館のコレクションから ぷろだくしょん我S『原点』 1970年頃、25分、16mm (デジタル上映)　★ FMA ICHI『話の広場』 「絵筆随想」 1973年、各回約9分30秒、計47分 出演：北川民次　★ 第1回「絵との出逢い」第2回「絵と教育」第3回「私の好きな絵」 第4回「私の絵画哲学」第5回「画家、今と昔」 ＊ラジオ番組 1月29日 (月)～2月2日 (金) 10:50～11:00に各回を放送 著作：FMA ICHI ② アート・ドキュメンタリーの魁 日映新社『愛知県映画』 35mm<「常滑焼」のみ 16mm> (DVD 上映) 第185号「和紙の芸術」 1961年、8分、モノクロ 第190号「七宝焼」 1962年、8分、モノクロ・カラー 第261号「紋りと染めと」 1975年、10分、カラー 第271号「常滑焼」 1977年、14分、カラー 計40分 以上、提供：愛知県広報広聴課 ③ 愛知県文化会館と愛知芸術文化センター 日映新社『愛知県政ニュース』 35mm (DVD 上映) 第86号「美術の秋－愛知県美術館だより－」 1955年、4分、モノクロ 第116号「文化講堂起工式」 1957年、4分、モノクロ 第140号「愛知文化講堂開館」 1958年、4分、モノクロ 第179号「愛知県図書館」 1961年、11分、計23分 モノクロ 以上、提供：愛知県広報広聴課 日映新社『建設記録・愛知芸術文化センター』 1993年、30分、16mm、カラー・モノクロ 日映新社『21世紀へのアートメッセージ 愛知芸術文化センター 栄地区・建設記録』 1993年、15分、ビデオ、カラー・モノクロ 計45分 以上、愛知芸術文化センター蔵 ※上映終了後、担当学芸員による解説を行います。

※上映作品の中には経年による劣化等により、欠落または不鮮明な箇所がある場合があります。また、現在では一般には用いない、あるいは好ましくない表現が含まれている場合がありますが、オリジナリティの保持を優先しそのままの状態で上映します。あらかじめご了承ください。

※やむを得ない事情により、事前のお断りなくプログラムを変更する場合がありますが、ご了承ください。

感染症拡大防止策を 実施のうえ開催いたします。	◎発熱や咳、くしゃみなどの症状が見られる方や、体調のすぐれない方は、ご来場をお控えください。 ◎ご来場の際は必ずマスクを着用ください。未着用の方はご入場をお断りする場合があります。 ◎ご入場前に検温を実施します。37.5℃以上の発熱のある場合はご入場をお断りします。 ◎ご来場前のこまめな手洗いや、手指の消毒にご協力ください。 ◎やむを得ない事情によりプログラムを変更する場合がありますが、あらかじめご了承ください。 ◎場内で新型コロナウイルス感染症の感染が確認された場合は、当館ウェブサイトでお知らせします。ご自身でご来場日時の記録をお願いします。
----------------------------	--